

CP-6-Ⅲ-16	<b>薬剤師への有機化学</b>	第6学年	前期 選択	1単位
<b>担当者</b>	久保 元			
<b>一般目標 (GIO)</b>	医薬品を名前で覚えるだけでなく、履修してきた有機化学の知識を使って、医薬品を化学式でも理解・説明できるような知識、技能を習得する。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	1. これまで履修した反応を使って、複雑な化合物の合成を説明できる。 2. 医薬品の構造式から、その医薬品の化学的な特徴を推定できる。			
<b>受講心得・準備学習等</b>	入学当時の化学が好きだった頃を思い出し、なぜ嫌いになったかを顧みること。講義する前日までに1, 2年で使用した有機化学の教科書に目を通しておくこと。講義では疑問を残さない。			
<b>事後学習・復習等</b>	反応機構は、矢印を使って描けるように繰り返し手を動かす。宿題プリントを講義の日の15時まで提出する。宿題プリントだけでは不足するので、国家試験過去問を解いてみる。			
<b>オフィスアワー</b>	講義日の16:00～18:00とする。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う。
回	項目	内容
1	有機化合物の命名法	IUPAC命名法の基礎、複素環や医薬品の基本的な骨格の名称
2	化学結合、立体化学	混成軌道、異性体、立体配置と立体配座、投影式
3	置換反応、脱離反応	ハロゲン化アルキルの求核置換反応
4	付加反応	付加反応における配向性
5	芳香族化合物の反応	求電子置換反応、求核置換反応
6	中間試験	
7	カルボニル化合物の反応Ⅰ	アルデヒド、ケトンのカルボニル炭素への求核的付加
8	カルボニル化合物の反応Ⅱ	アルデヒド、ケトンの $\alpha$ 位の反応
9	カルボン酸誘導体Ⅰ	カルボン酸の酸性度と反応
10	カルボン酸誘導体Ⅱ	カルボン酸からエステル、酸ハロゲン化物、アミド、ニトリル、酸無水物
11	含窒素化合物	アミンの塩基性と反応
12	転位反応	ホフマン転位、ベックマン転位、クライゼン転位など
13	期末試験	

<b>成績評価の方法</b>	中間試験と期末試験を実施する。講義中質疑応答により、理解度を確認するが、成績には加味しない。講義後の宿題プリントの成績を加味する。
<b>成績評価の基準</b>	中間試験(40%)、期末試験(40%)及び講義後の宿題プリント(20%)の合計が60%を超えること。ただし、中間試験と期末試験の受験は必須とする。
<b>教科書</b>	プリントを用いる。
<b>参考書など</b>	日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズⅡ3 化学系薬学Ⅰ. 化学物質の性質と反応(東京化学同人)